広報 なは 市民の友

第６１５号　毎月１回発行
2002年（平成14年）
４月

発行●那覇市　編集●秘書広報課
〒900-8585　那覇市泉崎1丁目1番1号
☎ 867-0111　●印刷 ㈱ 池宮商会

みんなできくラ
ラジオ広報
「那覇市民の時間」毎週土曜日
RBC 午後4時30分から40分まで

那覇市ホームページ
http://www.city.naha.okinawa.jp/

青空に赤瓦色の屋根 いなんせ斎苑

厳粛な中にも心が和み、ゆとりと安らぎの時が流れます。

那覇市と浦添市の共同事業として進められ、那覇市民はもとより、南部広域圏の20市町村が待ち望んでいた公営の斎場がこのほど完成しました。

その名は「いなんせ斎苑」。浦添市伊那武瀬に立つその外観はこれまでの斎場イメージを払拭し、周辺環境と調和した格調高いデザインとなっています。

植栽等で立地周辺の景観に違和感を与えないようにするとともに炉室、集じん設備、炉制御室など設備の近代化を図り、大気環境保全にも十分配慮しています。

エントランスホール、炉前ホール、見送りホール、待合いロビーなどのゆったりとした明るい空間は厳粛な中にも心が和み、ゆとりと安らぎのある時の流れのなかで故人との最後のお別れの場にふさわしい落ち着きを備えています。

青空に映える赤瓦色の屋根とオリエンタルな輪郭は古き沖縄の野辺送り風景でかつぐ龕（ガン）のようにも思われてきます。

落成式（2月22日）では式典に続き、南部広域市町村圏事務組合理事長の翁長那覇市長をはじめとする関係者によって名称石碑の除幕とテープカットが行われました。

「いなんせ斎苑」は市民生活に不可欠な新世紀の斎場として3月1日にスタートしました。

主な紙面

（2面）守り伝える、うまんちゅの宝
（3面）超豪華クルーズ船が寄港
（4面・5面）平成14年度施政方針（後半）
（6面）成人式シンポジウム
（7面）情報ＰＡＣＫ

支店の視点 ②

すみかわ　としひさ
済川俊久
（日本電気株式会社
沖縄支店長）

1955年（昭和30年）生まれ。
大阪府豊中市出身。
ＮＥＣ入社後、大阪を振り出しに埼玉県、東京都内にて勤務。
2000年10月に沖縄支店に着任。
沖縄県内におけるＮＥＣの製品、ソリューション及びサービスの提供。

日本電気株式会社沖縄支店（久茂地1−3−1久茂地セントラルビル４階）

沖縄へは約30年前、学生時代に訪問しましたが、当時はお金がなく、大阪から船で那覇港へ入り、地上に降り立っても揺れたまま歩いた記憶が残っています。人間の体験での刷り込みは大変なものです。

沖縄着任後感じた事について幾つか述べてみたいと思います。

まず沖縄観光に関して短期滞在型パック旅行が多く「沖縄本来の良さが伝わっていないのでは？」と感じています。

観光客は事前の情報収集としてどのようなイベントが待っているのだろうかと期待しながらガイドブック等をひもといて目的地へ訪れているのではないでしょうか。

その際、ＩＴを活用した情報発信で観光地見物が出来るようになれば、那覇まつりの大綱挽やＮＡＨＡマラソンを「バーチャル体験」して感動を与える事が出来ると共に、次回はどこに行って見たいというリピータ育成を図る事が出来るのではないでしょうか。

次にウチナーンチュの方々は「ユイマール」「イチャリバチョウデイ」等の人間同志の接点を大切にする精神を持っておられる事に感激しました。その事を発展させて「エコマネー」「ボランティアマネー」等を発行すれば、周りの人々に対して自分は何ができるかを考える事が出来るし、活動して蓄えることにより、自分が困った際には周りの方々に助けてもらう事が出来るのではないでしょうか。

現在の大都市に欠けている「隣人とのつながり」を保て、心豊かな人々が住む街創りが出来るのではないでしょうか。

最後に翁長市長自らが市民窓口に立つ事により目線を市民に合せておられる事はすばらしい試みだと感じております。

窓口時間の延長、エコ都市、電子自治体への取り組み等々先駆者的な活動を続けていただくことにより、沖縄の県都である那覇市に住んでいて良かったと感じ、より一層住みやすい街になることを期待しています。

「休日には好奇心旺盛に歩いて、スージグヮー散策を楽しんでいます」と話す済川支店長

市民課・国民健康保険課の窓口は毎日午後６時まで開いてます。（土・日、祝日を除く）